

岡山労災病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年9月策定

【岡山労災病院の基本情報】

医療機関名：岡山労災病院

開設主体：独立行政法人労働者健康安全機構

所在地：岡山市南区築港緑町1丁目10番25号

許可病床数：358床

（病床の種類）一般病棟（7対1）340床

ICU 10床

HCU 8床

（病床機能別）急性期

稼働病床数：358床

（病床の種類）一般

（病床機能別）急性期

診療科目：（21診療科）

内科、消化器内科、腫瘍内科、心療内科、精神科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、
外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科

職員数：

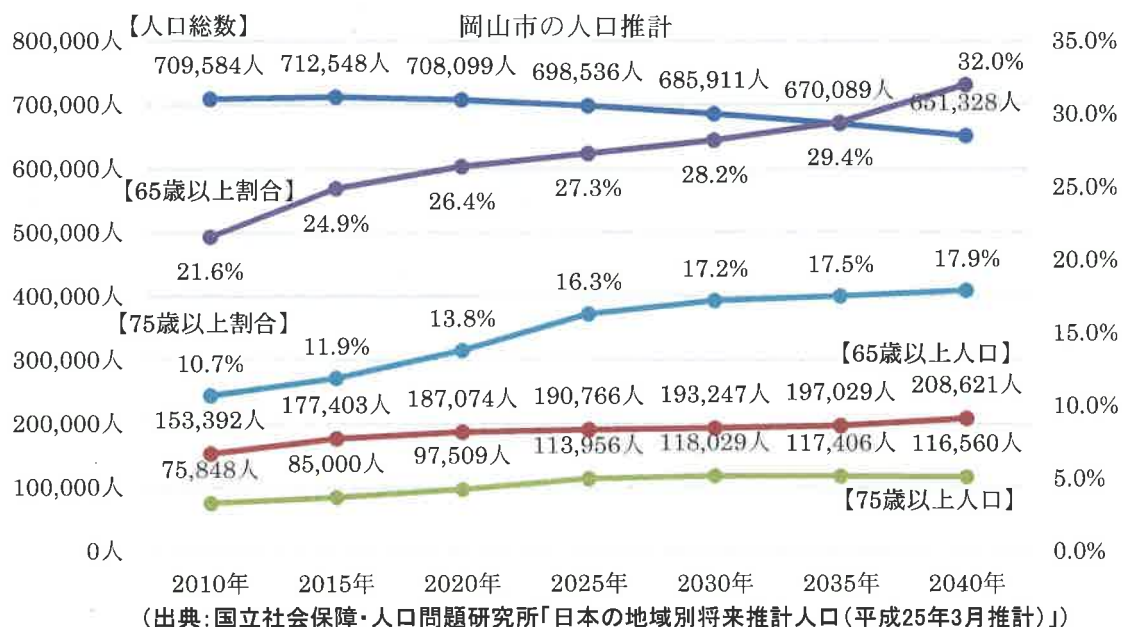
- ・ 医師 57名
- ・ 看護職員 314名
- ・ 事務職員 22名
- ・ 医療職 72名
- ・ 技能業務職 1名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

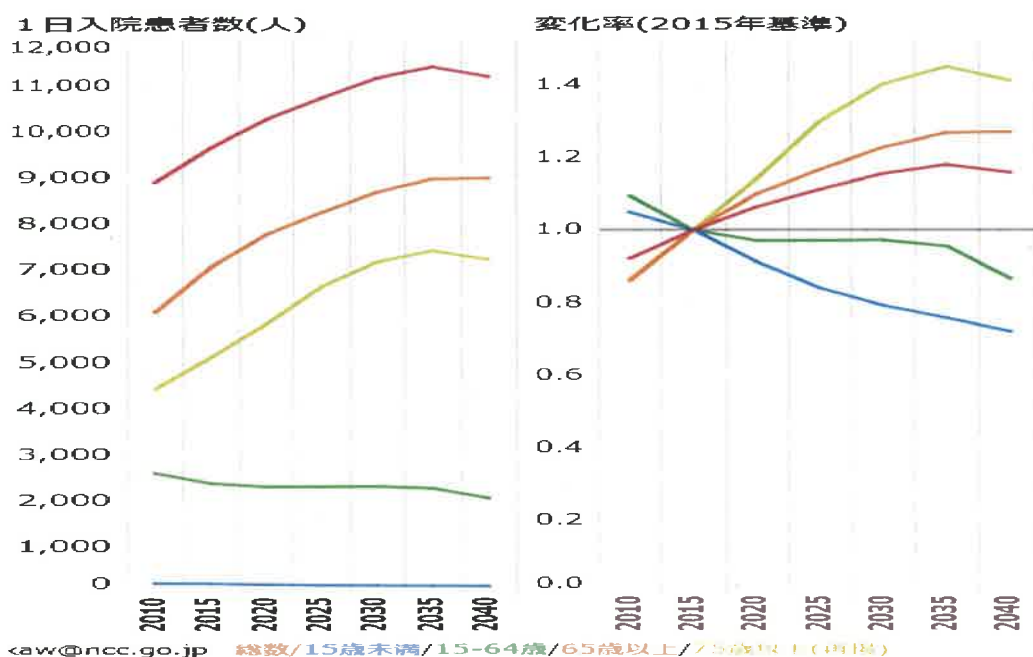
○ 岡山市の人口推移

岡山市の人口は2015年をピークに減少すると推計されている。ただし、65歳以上の割合は増加していくと予想されている。



○ 県南東部医療圏の入院患者数推計

県南東部医療圏の1日入院患者数の推計では、年々増加し2035年をピークに減少すると推計されている。ただし、65歳未満の患者数は経年減少していくと予想されている。



(出典: 産業医科大学公衆衛生学教室 石川ベンジャミン光一「人口・患者数推計/簡易版(H27/2015)」)

② 構想区域の課題

○ 県南東部医療圏の病床数

県南東部医療圏では高度急性期、急性期、慢性期が過剰で、回復期が不足すると予測されている。

(単位:床)

	① H28. 4	H25(実績)	②H37(見込)	③H52(見込)	②-①	②/①
高度急性期	2,332	1,125	1,187	1,146	▲ 1,145	50.9%
急性期	4,508	2,968	3,335	3,318	▲ 1,173	74.0%
回復期	1,401	2,500	2,927	2,969	1,526	208.9%
慢性期	2,520	2,163	2,029	2,052	▲ 491	80.5%
無回答等	619	-	-	-	▲ 619	-
計	11,380	8,756	9,478	9,485	▲ 1,902	83.3%

(出典:岡山県保健医療計画(平成28年4月))

○ 二次保健医療圏別公的病院等設置状況

県南東部医療圏に大規模な公的病院が集中し圏域内の約34%を占めている。

公的病院は周産期医療からがん等の生活習慣病の拠点病院として、また、災害医療やへき地医療の拠点病院として重要な役割を担っている。

公的病院は地域医療の拠点病院として救急医療や地域連携の中心的役割を果たすことが求められている。

(平成27年4月1日現在)

二次保健 医療圏	病院数					病床数	
	国	県	市町	その他公的	計	公的病院等病床数	許可病床数
県南東部	4	1	9	4	18	4,525 (33.7%)	13,443
県南西部	1		4		5	1,089 (11.2%)	9,738
高梁・新見			1		1	96 (9.4%)	1,023
真庭			1		1	105 (13.7%)	767
津山・英田			2		2	168 (6.6%)	2,527
合計	5	1	17	4	27	5,983 (21.8%)	27,498

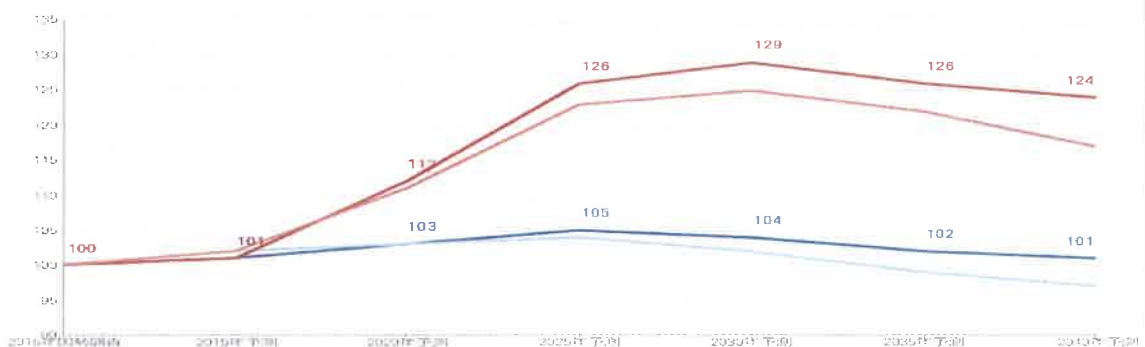
※病床数には、精神病床、感染症病床及び結核病床を含む。(出典:岡山県保健医療計画(平成28年4月))

○ 県南東部医療圏の医療・介護の推計

介護の需要割合が2030年までは大幅に増加すると推計されている。

岡山県全体と比較し、県南東部医療圏の医療・介護の需要割合は需要が高く、2025年から2030年まで増加し、ピーク後の減少割合も小さいと予測されている。

(医療介護需要予測指数(2015年実績=100))



■ 医療: 県南東部医療圏 ■ 医療: 岡山県 (出典:日本医師会「地域医療情報システム」)
■ 介護: 県南東部医療圏 ■ 介護: 岡山県

③ 自施設の現状

○ 病院の理念

『地域の人々に最適の医療を提供し、働く人々の健康を守ります。』

○ 基本方針

患者の権利を尊重し、尊厳を守ります。

地域の中核病院として、一人ひとりに最適な医療を提供します。

働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。

○ 病院概要

許可病床数 358 床（一般病床：340 症 ICU：10 床・HCU：8 床）で、21 の診療科、12 の専門センターを設置している。

○ 診療実績（平成 28 年度実績）

- ・一日平均入院患者数：288.5 人
- ・病床利用率：80.6%
- ・平均在院日数：16.3 日
- ・一日平均外来患者数：835.4 人
- ・救急車搬送件数：2,886 件
- ・手術件数：5,772 件
- ・紹介率：60.5%
- ・逆紹介率：86.7%

○ 特徴

- ・当院は、岡山市南区および隣接する玉野市の急性期医療を担っている。救急搬送件数は、平成 27 年度 2,733 件、平成 28 年度 2,886 件と年々増加している。
- ・地域医療支援病院として、地域医療連携室及び退院調整室、医療福祉相談等を集約した「患者サポートセンター」を平成 28 年 4 月に設置し、医療連携の強化に努めている。
- ・高度で安全な専門医療を提供するために人工関節センター、呼吸器病センター、消化器病センター等、12 の専門センターを設置している。
- ・消化器内科は 24 時間体制で救急患者に対応している。
内視鏡件数は平成 27 年度 6,032 件、平成 28 年度 6,359 件と年々増加し、岡山市内でトップクラスの件数となっている。
- ・当院は、岡山県指定のがん診療連携推進病院である。乳がん疾患への良質な医療の提供に向け、平成 29 年 6 月に「乳がん治療乳房再建センター」を開設し乳腺外科、形成外科が連携し治療にあたっている。
- ・当院の病床は 358 床であるが、そのうち整形外科は 95 床で約 27% を占めている。平成 28 年度の人工関節手術件数は 236 件で岡山市内ではトップ件数となっている。また、平成 29 年 4 月からは脊椎脊髄疾患患者の診療に向け、「脊椎脊髄センター」を開設し診療体制を強化した。整形外科のさらなる診療機能の向上に努めている。
- ・救急医療および小児医療については、二次救急医療機関として輪番制にも参加している。
- ・アスベスト関連疾患に係る診断・治療の知見・普及については、国の中核的医療機関としての役割を担っている。
- ・岡山労働局では、政府が平成 29 年 3 月に取り纏めた「働き方改革実行計画」を踏まえ、平成 29 年 7 月に「岡山県地域両立支援推進チーム」を発足させ「治療と仕事の両立支援」に取り組むこととしており、当院も委員を選出し協力している。
また、院内においても平成 28 年 11 月に「相談窓口」を設置し、治療を続けながら働きたい人への支援に努めている。

④ 自施設の課題

当院は、岡山市南区で唯一の公的病院として急性期医療を担っている。

県南東部医療圏病床区分別の将来予測の平成28年4月と平成37年度（見込）との対比では、高度急性期で1,145床、急性期で1,173床、慢性期で491床が過剰で、回復期で1,526床が不足となっている。

当院への救急搬送件数をみると、平成26年度2,652件、平成27年度2,733件、平成28年度2,886件と年々増加しており、そのうち隣接する玉野市からの救急搬送件数も増加しており平成28年度では888件と全体の約3割を占めている。

県南東部医療圏の平成37年度（見込）の急性期病床では1,173床が過剰と予測されてはいるものの、岡山市南区および隣接する玉野市内の地域の医療機関並びに地域住民への急性期医療の要望に応えていくためには、急性期病床の維持が必要と考えている。しかし、重症度、医療・看護必要度等の診療報酬の改定内容によっては、一部の病床区分の変更について検討していかなければならない。

当院は地域医療支援病院として、岡山市南区および隣接する玉野市内の地域の医療機関と連携しながら、高度で安全な医療、急性期医療を推進していかなければならない。

これらを実施していくためには、医師、看護師、臨床工学技士等の優秀な人材を確保するとともに、効果的・効率的な医療機器の整備を図っていく必要があるが、そのためには診療報酬のマイナス改定にも耐えうる盤石な経営基盤を確立していくことが必要である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・岡山市南区において唯一の公的病院として、隣接する玉野市も含め地域医療機関からの重症患者や救急搬送患者の受け入れを行うとともに、高度で安全な専門医療を提供し地域の急性期医療を担っていく。
- ・アスベスト関連疾患に係る診断・治療の知見・普及については、今年度末にアスベスト疾患研究センター（仮称）が完成予定であることから、当該施設を活用した診断研修を実施するなどにより国の中核的医療機関としての役割をさらに推進していく。
- ・治療を続けながら働きたい人を支援するために設置した「治療と職業生活の両立支援」の相談窓口の利用者増に向けて、市民公開講座等を活用するなど広報に努めていく。

② 今後持つべき病床機能

- ・許可病床数 358床
- 一般病床（7対1） 340床
- ICU 10床
- HCU 8床 の維持に努める。

ただし、今後の診療報酬改定や救急の需要、近隣医療機関の動向を見極めながら、適宜検討していく。

② その他見直すべき点

- ・平成25年度に運用を開始した地域医療情報ネットワーク「晴れやかネット」について、当院は診療情報の開示施設として参加しているが、「画像レポートシステム」とは未接続で、放射線や内視鏡等のレポート開示が困難となっている。今後、閲覧施設からの要望状況等を踏まえながら接続について検討していく。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	18	→	18
急性期	340		340
回復期			
慢性期			
(合計)	358		358

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	<ul style="list-style-type: none"> ○「2025プラン」の作成 ○市民公開講座開催 ○地域医療支援病院諮問委員会開催 ○病診連携満足度調査 ○次期診療報酬改定を踏まえ病床機能等について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化や救急の受け入れ体制の整備等を図り、地域のニーズに応じていく。 	
2018年度	<ul style="list-style-type: none"> ○アスベスト疾患研究センター（仮称）完成（運用開始） ○病床機能等について検討 ○市民公開講座開催 ○地域医療支援病院諮問委員会開催 ○病診連携満足度調査 ○「2025プラン」の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化や救急の受け入れ体制の整備等を図り、地域のニーズに応じていく。 	
2019～2020年度	<ul style="list-style-type: none"> ○市民公開講座開催 ○地域医療支援病院諮問委員会開催 ○病床機能等について検討 ○病診連携満足度調査 ○「2025プラン」の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化や救急の受け入れ体制の整備等を図り、地域のニーズに応じていく。 	
2021～2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ○市民公開講座開催 ○地域医療支援病院諮問委員会開催 ○病床機能等について検討 ○病診連携満足度調査 ○「2025プラン」の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携強化や救急の受け入れ体制の整備等を図り、地域のニーズに応じていく。 	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：83.0%
- ・ 手術件数：5,900件
- ・ 紹介率：70.0%
- ・ 逆紹介率：90.0%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：50.0%
 - ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.22%
- その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】
(自由記載)